

# しあわせの輪

ハーモニカを奏でる響き  
それは、ふるさとを想わせるように  
人の心に広がります

今月号から新企画として『しあわせの輪』のページが始まりました。  
このページに登場していただいた方の生き方や生きがいを、読者の皆さんと分かち合い「しあわせの輪」  
を広げていきたいと思えます。

## 音感で曲を吹く

小学校4年生のころ隣に旧家があ  
って、4歳年上の兄さんが2つハー  
モニカを持っていて、1つくれたん  
です。

そのころ学校でも「愛国行進曲」  
を教えたり、士気を高めるために勇  
ましい軍歌がラジオから流れていた  
りして、それを聴いてはハーモニカ  
で吹いていました。楽譜なんてない

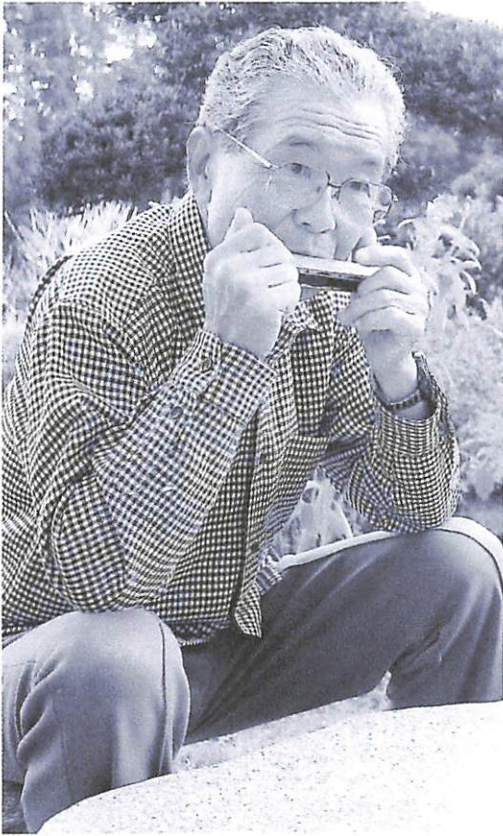
んですから、聴いた音を吹くんです。

若いころは、青年団といって若者  
の集まりがありました。そのときは  
いつもポケットにハーモニカがあっ  
たと思います。当時の楽しみと言え  
ば、みんなで集まって、演芸するこ  
とぐらいでしたから。

## 再びハーモニカを手に

73歳になったころ、時間を惜しん  
で仕事をすることもなく、もともと

## ひろゆき 廣行と言う名前のせい か 趣味は広いが何をやって でも、ハーモニカは特別 でも中途半端



佐久間廣行さん(茗荷沢)

歌が好きだったし、小学校卒業のこ  
ろ農業の手伝いと兵隊に志願したり、  
就職のため東京に出たりして吹くの  
をやめていましたが、終戦後に買っ  
たハーモニカを引っ張り出して、ま  
た吹くようになりました。

レパートリーは、童謡、唱歌、抒  
情歌、流行歌、戦時歌謡など昔覚え  
た曲です。ただ短調の歌は、息を吸  
う回数が多いので苦手ですね。

若いころから山登りが好きで、よ  
く登りました。三千メートル級の山  
頂で、ハーモニカを吹いてみたかつ  
たです。気持ちいいでしょうね。今



佐久間さんの吹くハーモニカに聴き入る老人クラブ会員

はハイキング程度しかないから。  
もっと上手に吹けるようになって、  
老人ホームを慰問したいです。ただ  
内気だから1人で行くのは気が引け  
てしまつて。仲間がいればぜひやり  
たいですね。

## 《佐久間さん》のしあわせ

もらったハーモニカをきっかけに、  
ともに歩んだ人生。奏でる響きは心  
に染み渡り、涙を誘う。

これからの人生は、老人ホームを  
慰問し、皆さんに懐かしい曲を聴い  
てもらえれば。と語る。

佐久間さんの幸せを感じるインタビ  
ューでした。